

平成28年度 議会運営委員会 行政視察報告書

1. 視察日程 平成28年8月4日(木)～8月5日(金)

2. 視察先及び視察内容

(1) 愛知県安城市 8月4日
「安城市議会ICT推進基本計画について」

(2) 三重県伊賀市 8月5日
「議会改革の取り組みについて」

3. 参加者

委員長 土屋 光行
副委員長 勝間田幹也
委員 本多 丞次 神野 義孝 田代 耕一 小林恵美子 平松 忠司 黒澤佳壽子
委員外議員 高橋 利典(議長) 勝間田博文(副議長) 高木 理文
当局職員 坂上 剛(行政課番号制度調整監)
事務局 佐藤 歌愛(議会事務局副惨事) 滝口 拓樹(議会事務局主事)

4. 視察内容

■ 『安城市議会ICT推進基本計画について』

平成28年8月4日(木) 13:30～15:00 於:安城市役所

《視察研修の目的》

安城市議会において、議会改革の一環として進められたICT化への取り組みの全体像と成果、及び諸課題等について詳細な視察を行い、これを参考として当市議会のICT化の推進を図っていく。

《視察内容》

(1) 議会ICT化の背景と取り組みの流れ(概略)

情報化社会の進展や地方分権の波等が押し寄せていた中で、自治体の近代化が避けて通れない状況下、安城市議会においては、平成19年度より議会改革への具体的な取り組みを進めたようだ。

改革の課題は様々あったようだが、平成22年度に議会が実施した「市民アンケート」の結果(①議会情報がない ②議会の内容がわからない ③議会の具体的な動きが見えない ④議会情報の発進と受信の双方が消極的 ⑤他)で、『議会の見える化と議会改革推進』の必要性が打ち出され議会改革検討委員会において、本格的な議論が始まった。

この検討委員会の議論の中で、議会のICT化に関しては平成26年度より話し合わせ、翌年、平成27年6月には、会派の代表6名から成る『議会ICT推進プロジェクトチーム(PT)』を立ち

上げて本格的な取り組みに入り、月2回程、合計15回の会議を進め、翌年2月の全員協議会ではペーパーレス会議の試行、翌3月議会では、代表質問・一般質問でタブレット端末を利用する段階へと進めてきた。

主な取り組み期間としては6カ月、たいへん早いスピードで議会のICT化を実現したと考えられる。

(2) 『議会ICT推進プロジェクトチーム(PT)』が取り組んだ3つの基本的検討事項

☆ 先ず、議会の合意を形成して取り組むために、議会ICT化へのベクトルを明確化する必要があり、特に目的と効果についての考え方を明確にした。

① 検討事項 1 → 議会ICT化の目的として検討されたこと。

- ア. 議会運営の効率化 — ・ペーパーレス化・事務作業の効率化(軽減・スピードアップ・他)
- イ. 議会の見える化・魅せる化 —
 - ・ライブ中継・SNSの活用で議会の見える化
 - ・議場のICT化で分かりやすい議会運営・他
 - ・大型スクリーンで説明資料・持ち込み資料の電子化
- ウ. 危機管理体制の強化 —
 - ・当局と議会(議員)の災害情報の共有と、情報伝達の迅速化による責務の遂行等、危機管理体制の強化
- エ. 議会の活性化 —
 - 情報伝達の迅速化・スケジュール共有・資料の電子ライブラリー化・エビデンス(証拠)性の確保・他

② 検討事項 2 → 議会ICT化の効果(投資効果)として検討されたこと。

- 定量効果として —————
 - (金額に換算できる効果) ・ペーパーレス化で紙の削減
 - ・事務作業の効率化・迅速化でスピード化と人件費削減
 - ・他
- 定性効果として —————
 - (金額に換算できない効果) ・議会運営に対する市民の満足度、信頼度の向上
 - ・議員活動の活性化
 - ・議会と議員の見える化で市民と繋がる議会

☆ 次に、導入における具体的な課題に取り組む必要の中で、主に検討されたこと。

③ 検討事項 3 → 具体的課題の検討と対策等

- ア. 議員の意識調査
- イ. ICT化対象業務領域(市執行部との協業とのかをを含め)と対象資料の選定。
- ウ. 4年間(任期)のICT化スケジュールの作成と、各年度の実施事項の決定。
- エ. 導入ソフトウェアとハードウェアの検討。
(グループウェア・ビューワー・電子会議システム、及びタブレット端末等について。)
- オ. ICT化事業推進のルール作成(利用規約・費用負担規約等)
- カ. ICT化事業推進のリテラシーへの取り組み。
(特に、苦手な議員も取り組める環境づくりや、丁寧にICT化を推進していくことに努力。)

(3) 検討事項3に係る主な取り組みの状況や結果等について

① ICT化への議員の意識調査の実施と結果。

資料等の電子化について、積極的な意見が70%を超えた。(特に、日程・スケジュール・議案書と説明資料等について。) *慎重論も25%程度あった

② ICT化対象業務領域(市執行部との協業とのことを含め)と対象資料の選定基準の策定。

結果 ——— 市執行部に理解されず、議会単独でICT化へ・・・
 まずは、議案書と議案説明書(議員の要望が多かったもの)を対象に、ペーパーレス化を推進。

③ 4年間(任期)のICT化スケジュールの作成と、各年度の実施事項の決定。

『議会ICT化推進基本計画』として策定した。
 (*平成27年度から平成30年度までのICT化事業推進スケジュール。)

④ 主な導入ソフトウェアとハードウェアの検討

結果	ソフトウェア	—	<ul style="list-style-type: none"> ・『電子会議システム(SideBooks)』に決定 ・『グループウェア(サイボウズ)』も導入決定
	ハードウェア	—	<ul style="list-style-type: none"> ・『IpadPro(12.9インチ)』を導入決定 ・『WiFi環境』の整備

(*いずれも機能・操作性・セキュリティー・保守サポート等の面より決定)

経費について

ア. 導入費用合計 ————— 6,365,000円

費用項目内訳
グループウェア・電子会議システム・WiFi環境整備 本会議ライブ中継(ネット回線料含む)・その他備品

* WiFi環境整備が3,100,000円で、全体の48.7%を占める

イ. ランニングコスト合計(年) ————— 2,803,000円

費用項目内訳
グループウェア・電子会議システム・ <u>タブレット利用料</u> WiFi環境・本会議ライブ中継(ネット回線料含む)

*タブレットは、ソフトバンクとのレンタル契約で、1台4,500円/月
 負担の内訳(公費2,500円・政務活動費より2,000円 — 私費負担なし)

(4) ICT化試行後の状況について ― (当初は試行として運用している)

① 議員へのアンケート結果

5割以上活用している議員が、65%、紙だけの議員は0人。

② タブレットの利用状況

当初の計画では、紙とタブレットの併用で進めていたが、既に議案書等の紙は不要との意見もあり、6月定例会より全議員タブレットを活用することになった。(但し、議案書等の紙は、各会派へ1部配布する。)

③ 効果は？

試行での取り組み期間が短いので、多面的な効果が考えられる状況ではないが、既に紙については、累計で74,5%の削減率を示した。

*費用対効果の点で考えると、完全ペーパーレスならば「200万円～300万円/年」の定量効果がある。(紙と併用では「100万円/年」程度の効果である。)

(5) 今後の課題について

- ① ペーパーレス化だけが目的ではないので、他の重要な目的の実現に向かって取り組んでいくこと。
- ② より使い易い運用のために、課題を整理して取り組んでいく。
(特に、議会の要望で新しいバージョンのソフトを開発していけるようにしたい。)
- ③ 定期的なフォローアップ練習を進めていきたい。(落ちこぼれのないように。)
- ④ 当局からの資料をPDF化するのに、事務局が行っている問題への対処。
- ⑤ その他



《考 察》

本項については、各報告者（委員 8 名、委員外議員 3 名）の個別の報告内容を整理して報告する。

（１）ICT化推進に積極的な考察（意見）

- ICT化をプラス評価
- ・ 議員間、当局とのやりとりに必要。
 - ・ 議会報告会での有用性が高い。
 - ・ 今回の視察を通して、どこのシステムをどのようにセットすれば良いのか分かった。また経費のこともよく分かり、今後の導入の大きな参考になった。
 - ・ 当局側も同様に対応すべき
 - ・ 議会のICT化は、ペーパーレス自体が目的ではなく、議会の効率化・迅速化・議員活動の充実が狙いであると同時に、議会の透明化・見える化の推進を果たすものであることを再確認できた。
 - ・ 議員が中心となって議会のICT化に取り組んでいることは、たいへん参考になった。
 - ・ 本視察に際して、関係者の対応等から、安城市議会の本施策に関する自信と誇りを感じた。
 - ・ 市民アンケートを基にした議会のICT化推進への取り組みは、動機が明確である。
 - ・ ICT化に詳しい少数精鋭のプロジェクトチームの役割は大きい。
 - ・ ICT化を進めるための、基本的検討事項を早期に決定することが重要である。
 - ・ ICT化推進の綿密なスケジュール表の作成と着実な実施が大事。
 - ・ 平成27年度の積極的、計画的な推進が目的達成に大きな効果があった。
(短期集中実施が効果的)
 - ・ 完全なペーパーレスは困難であろうが、タブレットの活用が、情報の共有・活用・発進に威力を発揮する。
 - ・ IpadPro（12.9インチ）は、見やすさ、操作のし易さ等で優れている。
 - ・ 会議システム（SideBooks）もさらに使いやすくなったと思う。
 - ・ グループウェア（サイボス）の説明を受け、事務の効率化に寄与できると思った。
- 積極的なICT化を
- ・ 安城市では、議員のみがタブレット端末を持って、当局職員が持っていないことに疑問を感じた。当局と一体となった情報共有、並びにICT化の推進をすべき。
 - ・ 当局の資料を閲覧するためのPDF化を議会事務局が行っているが、これは資料提出の担当部署で行うべきと感じた。
 - ・ 本市議会においても導入に向けた検討を早急にすべき。
 - ・ 情報発進・収集のツールとして迅速に導入すべき。
 - ・ タブレット端末の利用は、かなりの紙の節約ができる。来年の新議場の完成に合わせて導入できれば良いと思う。
 - ・ 課題等もあるが、ともあれ利点や効果もあることから、本市議会としてタブレット端末の導入を早急にすべきである。
 - ・ 議会として体制を整えてプロジェクトチームをつくり取り組むべき内容である。
 - ・ 当局と同時導入が望ましいが、議会単独で進められれば検討すべき。
 - ・ 安城市議会では早期に導入していて、議会の効率化はスケジュール管理により、効果が大きい。本市も早期に導入し、効率化を図るべきである。
 - ・ 本市においても、現在議会改革を推進している中、議会ICT化に向けて、ビジョンを明確に策定し、速やかに執行機関との情報交換の中、具体的な見積もりや、環境整備に向け、来年度当初予算に間に合うように推進すべきであると思う。

(2) ICT化推進における留意点を指摘した考察（意見）

- ・導入にあたっては、議員としてのモラルを徹底していかなければならない。
- ・導入に向けてプロジェクトを立ち上げる時期を考えるが、課題が多出すると推察する。拙速に陥ることのないよう、十分な検討が不可欠である。
- ・12.9インチのタブレットは大きくて見やすいが、少し重たいと感じた。
- ・議員間において、機器活用の得意・不得意で、情報量にアンバランスが生じることは許されない。（ICTの苦手な議員に対する最大の配慮が必要である。）
- ・当局との同時進行でないため、議会事務局の負担増になっている。

以上

■ 『議会改革の取り組みについて』

平成28年8月5日（金） 10:00 ~ 11:30 ~ 於：伊賀市役所

《視察研修の目的》

議会改革度全国2位とも言われた伊賀市議会の、改革への取り組みの経緯と、特に地方自治の原則である「住民自治」との関係における議会改革の具体化の状況と成果、及び課題等について詳細な視察を行い、これを参考にして当市議会の今後の議会改革の更なる推進を図る。

《視察内容》

議会基本条例の制定と、条例に基づく議会改革について

地方分権進展の下、平成16年12月に伊賀市自治基本条例が制定され、議会改革への機運も高まる中、軸足を市民においた議会改革が議論され、平成18年5月に「議会のあり方検討委員会」を設置して改革への取り組みを開始した。以後次のようなプロセスを経て伊賀市議会『議会基本条例』の制定に至り、この条例に基づく主要事項に取り組み、議会改革を推進している。

（北海道栗山町の取り組みを参考にした。）

平成18年6月～8月 —— 56会場、83団体→約500人の市民との意見交換を行った。
（ありとあらゆる厳しい意見があった。）

平成18年9月・10月 —— 条例の素案作成

平成18年11月 —— タウンミーティング（市民参画）

平成18年12月 —— パブリックコメント

平成19年1月・2月 —— 議員全員懇談会（議員間での議論）

平成19年2月28日 —— 『議会基本条例』可決（議員発議 ——→賛成22、反対11）

この条例に基づいて取り組んでいる主要事項

議会報告会、政策討論会、出前講座、議員定数・議員報酬
執行機関との関係（一問一答方式・反問権・他）
議員研修の充実強化、議会広報の充実



以下、主要事項の中の3点について、具体的な説明のあったのでその内容について示す。

☆ 1点目 — 議会報告会について

- ・ 24人の議員が6班(1班4人)で、小学校区単位に設置された38の住民自治協議会を対象として1協議会年1回実施。
- ・ 1回1~2時間で、最初の15分が議会側の説明。残りが意見交換の時間。
- ・ 平成19年より始めている。初期は定例会の議決案件の説明が主であったが、以後は事前に意見交換のテーマをもらって対応する形、また議会側からのテーマ設定による展開にもなっている。
- ・ 平均参加者は各会場20人余で、同じ住民の参加も多い。(参加者が少ないのも課題。)
- ・ 当局側のご用聞きのような面も持ちやすい。

☆ 2点目 — 政策討論会について

- ・ 平成19年より実施している。
- ・ 全議員による議員間討議の形式で進めている。(自由討議)
- ・ 議会として当局側への要望や提案をするための会となっており、実績も多い。
- ・ この政策討論会をとおして、議員発議や委員会発議での条例制定や改正も行ってきた。

☆ 3点目 — 出前講座について

- ・ 委員会の活動として取り組んでいる。
- ・ 市内の各団体(NPO・〇〇保存会・商工会議所・PTA・その他)からの申し込みによって、所管の委員会が出前講座として進めている。
- ・ 平成27年度は5箇所を実施。



《考 察》

—— 議会基本条例の制定と、これに基づく主な改革事項等に関する考察を中心として ——
＜委員・委員外参加議員の考察＞

(1) 議会基本条例の制定に関すること

- ① 議会条例の制定は議会と市民の距離を縮め、さらに議員にとっては、市域全体の（出身地以外の）課題も分かるようになり、議員活動の内容を高めていくことができる。
- ② 議会条例を可決し、それに基づき議会報告会、政策討論会、出前講座等を実施していることが参考となった。しかし制定した時の基本理念が薄れてきている、とのことであり、また4年に一度の改選で議員の入れ替わりもあり、問題も見受けられた。
そんな中で、本市議会においても、議会報告会を早急に実施すべく準備に入っているが、議会基本条例の制定はしなくても、市民の皆様が開かれた議会にするにはどうすべきか、しっかり議論し取り組むべきと感じた。

(2) 議会報告会に関すること

- ① 議会と住民の距離を縮め、議会の役割等を住民に理解してもらうために大事である。
- ② 適切な資料で臨むことが大事である。特に当局との意思疎通の上で作成すること。
- ③ 最初は、定例会の議決議案等の説明から、徐々に意見交換の色彩を強めるなど、試行錯誤してきたようだが、10年の歴史において、参加人数の平均が20名程度は問題と考える。
(出前講座で補っている印象があった。)
- ④ 当市の議会基本条例制定の期を見定めるためには検討委員会を設置し、拙速を避け十分に審議・検討の上、議員全員の理解・納得を得る必要がある。
- ⑤ 当市の今年度の報告会は、伊賀市の出前講座に準じたものになりそうだ。議会に関心を持ってもらう取り組みとして、高望みせず継続しながら試行錯誤を続けていくことが大事。
- ⑥ 当市議会における議会報告会は、条例化しなくても取り組んで行けると思う。
- ⑦ 議会報告会が、小学校区毎に設置された住民自治協議会に対し、毎年延べ30回以上と活発に行われているが、出席者が協議会や傘下自治会の役員に偏る等、他市と同様の悩みを抱えていた。
- ⑧ 報告内容は、定例会議決議案等の説明。意見交換のテーマは事前に住民自治会と協議するとか、また議会側から投げかける等の工夫をしていた。
- ⑨ 定数24人の議員を4人ずつ6班に分けての活動を、56会場83団体との意見交換を行っている。
- ⑩ 当市は委員会毎の報告会を予定しており、議員の位置づけの難しさや、議員個々の意見や見解は述べない等、これから実施する報告会に際しての在り方が勉強でき大いに参考になった。
- ⑪ 議会報告会で、議会と当局がどのようなことを行っているのか、また向かっている方向を市民に知っていただくことは必要。ただ市民の参加と、効果的な報告会の在り方が課題だ。
また、議会として統一的な考えで行うことが重要である。さらに話だけでなく、プロジェクター等での説明を入れ、興味関心をもっていただくことが必要。
- ⑫ 当市で、既に方向付いている常任委員会単位の報告会は良いと思う。
- ⑬ 条例により議会報告会実施要領等よく整備され、先進的な取り組みをしているので、学ぶことが多かった。また報告会は住民自治会単位で開催され、地域要望が多いとの説明であった。
当市においては、委員会報告から始め、議会の透明性を始め、段階的に取り組みを行い、時間をかけて行うべきだと思う。

(3) 政策討論会・出前講座に関すること

- ① 当市においても政策討論会等を開催し、議員や委員会発議の条例を提案できるよう、環境整備をする必要があると、痛切に感じた。
- ② 策討論会から市への提言がまとめられていることは注目に値する。
- ③ 常任委員会の出前講座という取り組みもよいと思う。
- ④ 議員間の政策討論に力を入れており、条例の制定や改正に結びつけている等、大いに参考になった。

(4) その他

- ① 伊賀市では庁舎の保存をめぐって市長との対峙があり、また住民投票等による、住民の意思の反映の場があった。この庁舎問題では、議会が予算修正や議決を行う等「鍛えられている」というのが印象に残った。
- ② 伊賀市の議会改革の取り組みは素晴らしかった。

以上